

2024年12月
(前期比季節調整値版)

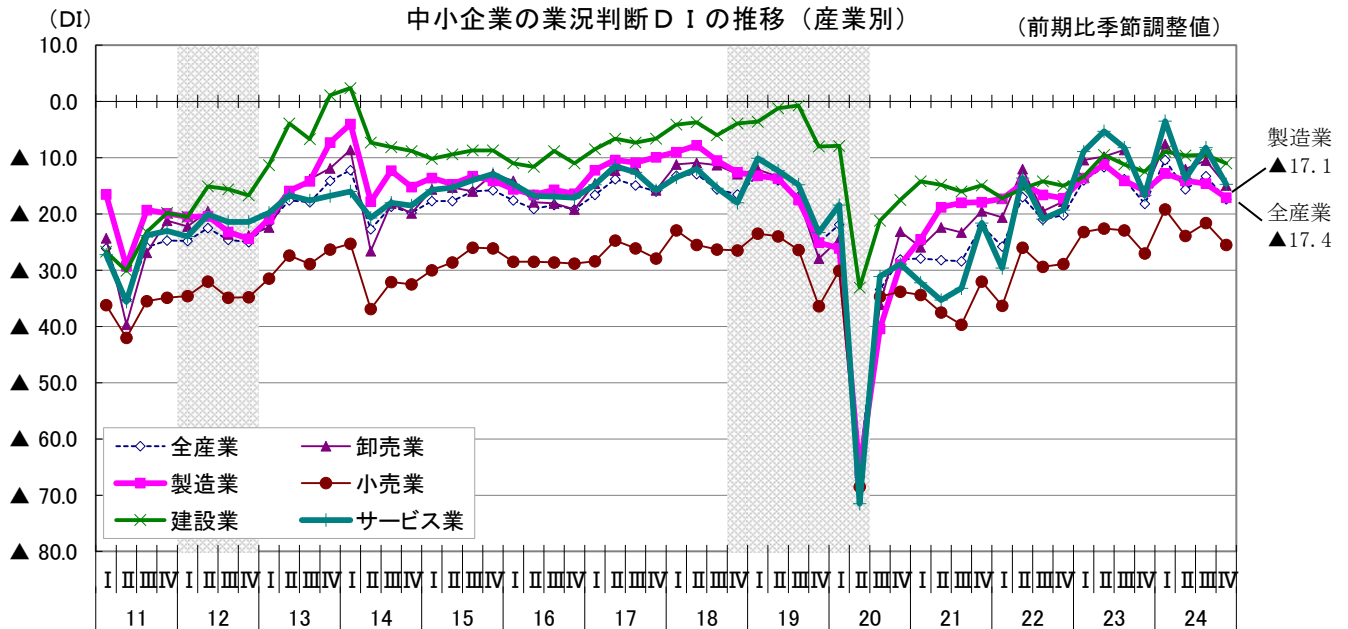
第178回 中小企業景況調査報告書 (2024年10-12月期) 〈製造業編〉

※D Iとは…

「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。D I値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
E-mail: chosa@smrj.go.jp
https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html

中小企業の業況判断D Iは、2期ぶりに低下した。
前期と比べた全産業の業況判断D Iは、2期ぶりに低下した。(▲13.3→▲17.4)



〈地域の業況〉

※網掛け部分は景気後退期

北海道でマイナス幅が縮小し、中国、四国、九州・沖縄、関東、東北、近畿、中部の地域でマイナス幅が拡大した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
 2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。
 3. 業況判断D I＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で21.4%（前期差0.3ポイント減）と減少した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2024年10-12月期	22.6	17.6	15.7	14.3	22.1	17.1	25.0	18.7	28.9	22.5	24.7	27.1	34.3	16.5	21.4
2024年7-9月期	22.3	18.4	12.6	13.9	22.9	18.5	26.8	20.3	24.8	25.5	24.4	21.5	36.2	18.4	21.7
2024年4-6月期	23.3	16.6	17.6	15.7	18.8	16.9	27.1	19.5	22.1	24.4	21.7	27.4	30.6	16.2	21.1
2024年1-3月期	21.6	13.0	12.6	16.7	16.9	15.5	28.9	21.6	27.3	22.8	23.2	22.9	28.4	15.0	20.1
2023年10-12月期	23.6	18.3	14.5	14.9	22.5	16.1	32.5	24.8	32.2	25.1	26.0	27.7	26.6	18.7	22.5

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「原材料価格の上昇」が1位にあげられており、「需要の停滞」が2位、「従業員の確保難」が3位となった。

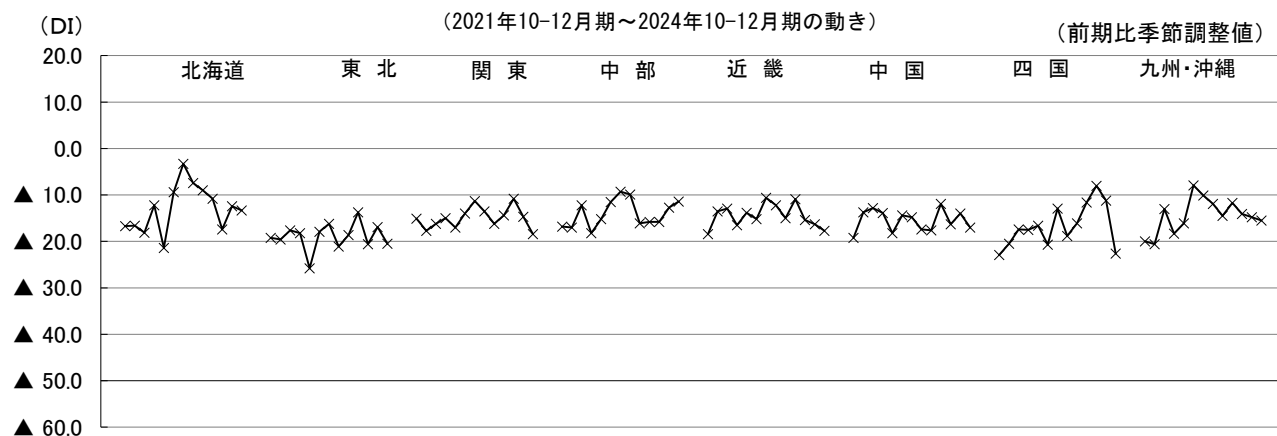
（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (10-12月期)	原材料価格の上昇 (29.3%)	需要の停滞 (18.4%)	従業員の確保難 (9.8%)	生産設備の不足・老朽化 (8.8%)	人件費の増加 (8.2%)
前期 (7-9月期)	原材料価格の上昇 (29.0%)	需要の停滞 (18.2%)	従業員の確保難 (9.5%)	生産設備の不足・老朽化 (9.2%)	製品ニーズの変化への対応 (6.9%)

4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、中部でマイナス幅が縮小し、四国、関東、東北、中国、近畿、北海道、九州・沖縄でマイナス幅が拡大した。

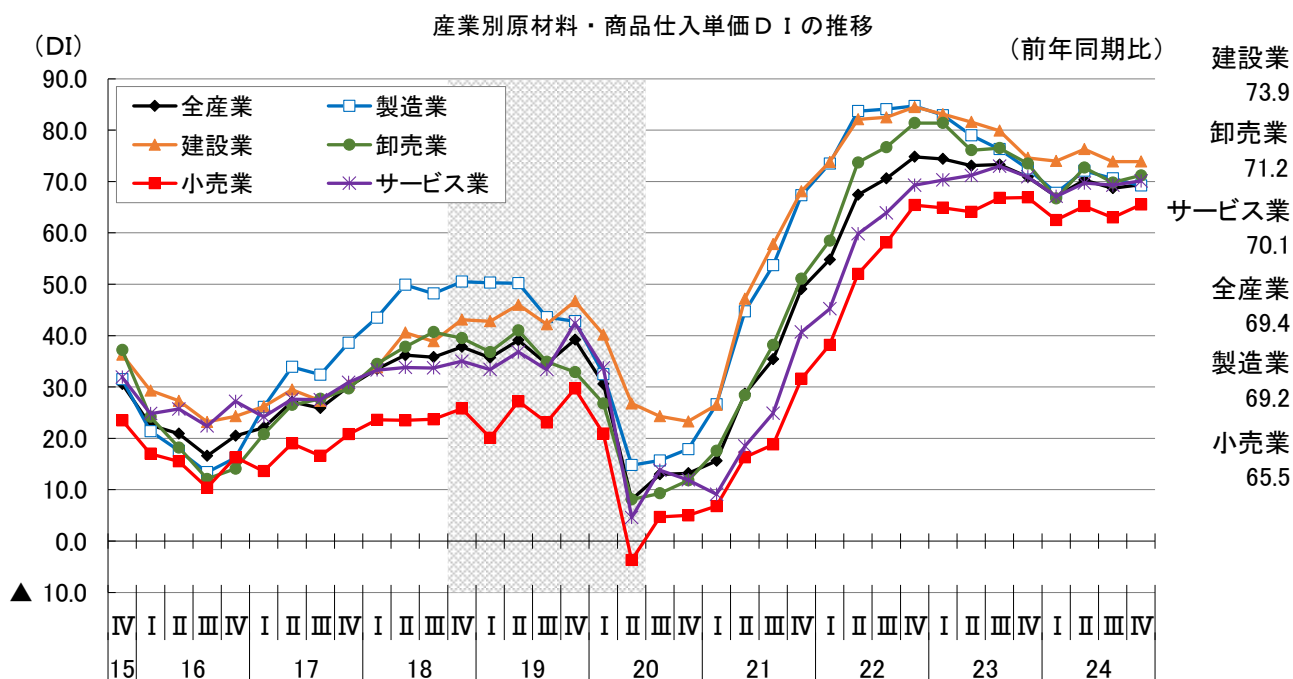
中小企業の地域別業況判断DIの推移
製造業



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合。

5. 製造業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、69.2（前期70.6、前期差1.4ポイント減）と2期連続で低下した。



【調査対象企業のコメント】

- ここ数ヶ月で大きな改修工事の受注があり、その工事も完成の目途がたち落ちてきている。年末に向けまた数件大きな工事の受注をいただいているので今期の売上は順調といえる。[道北・オホーツク 金属製品]
- チップ、オガ粉とも需要は高いが、木材の確保が厳しく特に冬期間は地域内伐採量も減ってしまうため、原材料を確保するべく価格の高い材を仕入れるしかなく、売価に転嫁するため取引先と協議を重ねている。[福島 木材・木製品]
- 半導体関連以外の中小製造業は、当社を含め需要の停滞状況にあり、今日の賃上げ圧力や製造経費の増加は経営の悪化を招いている。特に先行き不透明な中では厳しさを感じる。[長野 輸送用機械器具]
- 人材確保が難しく生産設備の導入や、工程改善や残業で受注に対応している状況。 値上げも一巡して採算改善を期待しているが思った以上に様々なコスト上昇が上回り、増収減益の状態となっている。[三重 その他の製造業]
- 加工賃や輸送費、原材料費、人件費など全てにわたって値上げが進み、原価や経費が増えている。その一方で販売価格は変わらず現状維持であるため利益が減っている。[奈良 繊維工業]
- みその原料の米が今の情勢で、入手が難しく製造量の減産になっている。長期熟成なので引き合いの在庫がないとチャンスロスを生む。また有機米・大豆も高騰していて、原料自給生産にむけていこうと思う。[島根 食料品]
- 需要の停滞により、同業他社（競合先）も受注確保に動き、見積もり段階での価格競争が発生している。正当な価格では受注できづらくなっている。[高知 機械器具]
- 相次ぐ値上げでエンゲル係数は、42年ぶりに高水準になるなど、消費者の生活防衛意識は強まっている中、耐久消費財は後回しにされ、その中でも当社の中、高額価格帯のものはさらに敬遠されてしまっている。[福岡 家具・装備品]

【調査要領】

- 調査時点：2024年11月15日時点
- 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,592のうち有効回答数17,565（有効回答率94.5%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,291を集計したもの。）